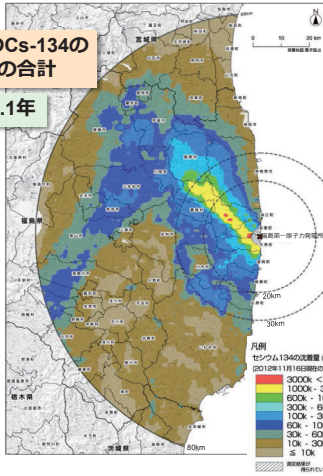


福島第一原子力発電所から80km圏内の  
第6次航空機モニタリング結果

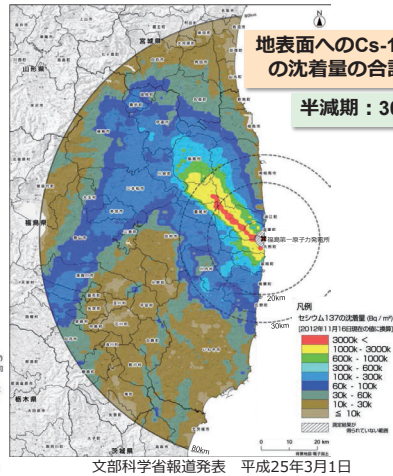
地表面へのCs-134の  
沈着量の合計

半減期：2.1年



地表面へのCs-137  
の沈着量の合計

半減期：30年



文部科学省報道発表 平成25年3月1日  
(平成24年11月16日現在の値に換算)

Bq/m<sup>2</sup> : ヘクレル平方メートル

福島第一原子力発電所 80km 圏内の結果で比較しても、セシウム 134 とセシウム 137 は非常によく似た分布範囲を示し、同時に、それぞれの沈着量の量的比率関係を確認したところ、測定地点によらず非常によく似た比率関係を示していることが確認されました。また、航空機モニタリングによるセシウム 137 の沈着量の結果と、土壌試料を用いて作成されたマップを比較したところ、局所的には測定手法の違いに伴う差が見られるものの、全体的な傾向としては、両測定の間で矛盾のないことが確認されています。

本資料への収録日：2013年3月31日

本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連 Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査は怎么样了
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか